

ウェールズにおける言語状況と言語政策

浦田和幸

1. はじめに
2. ウェールズの言語状況の歴史
 - 2.1. ブリテン島の初期の歴史
 - 2.2. ウェールズ語関連の歴史
 - 2.3. ウェールズ語話者数の推移
3. ウェールズ語の現況
 - 3.1. CENSUS 2001: MAIN STATISTICS ABOUT WELSH (2003) より
 - 3.2. THE VITALITY OF WELSH: A STATISTICAL BALANCE SHEET (2008) より
4. 言語政策の例
5. おわりに

1. はじめに

イギリス（公式名：The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland）は、ブリテン島（イングランド、ウェールズ、スコットランド）と北アイルランドから成る。人口は2006 年半ば時点で約 6060 万人、地域別ではイングランドが 5076 万 2900 人、ウェールズが 296 万 5000 人、スコットランドが 511 万 6900 人、北アイルランドが 174 万 1600 人である。（駐日英国大使館のホームページを参照）

かつてブリテン島ではケルト諸語が広く用いられていたが、現在ではケルト語派のうちウェールズ語のみが英語と並んで公的な地位を与えられている。小論ではこの点に注目し、ブリテン島に位置するウェールズ地方の言語状況の歴史を概観したうえで、現代の言語政策について検討する。

最初に、「ウェールズ」という呼称について簡単にふれておきたい。Wales や Welsh という語は英語での呼称であり、ケルト人が用いた表現とはまったく異なる。

英語の Welsh の語源は下記のとおりである。（*The Concise Oxford Dictionary* 10th ed. より引用）

Welsh – ORIGIN OE *Welisc*, *Wælisc*, from a Gmc word meaning ‘foreigner’, from L. *Volcae*, the name of a Celtic people.

Welsh は古英語 (OE=Old English) の時代から存在し、語源的には「外国人」を意味するゲルマン語に遡る。さらに、ラテン語で「ケルト族」を意味する *Volcae* に遡るという。ブリテン島の状況を想像するならば、侵入者であるゲルマン人たちが、先住のケルト人を指して ‘foreigner’ の意で *Welisc* などと言ったのであろう。

一方、ウェールズ語では、「ウェールズ」は *Cymru* (カムリ)、「ウェールズ人たち」は *Cymry* (カムリ)、「ウェールズ語」は *Cymraeg* (カムライグ)、「ウェールズの」は *Cymreig* (カムレイグ) という。

なお、英語でも 19 世紀には *Cymric* という語が登場する。ウェールズ語の *Cymru/Cymry* に英語の接尾辞 *-ic* を付けて造語したものである。参考までに、*The Concise Oxford Dictionary* (10th ed.) より引用しておく。

Cymric /ˈkɪmrɪk/

adj. Welsh in language or culture.

n. the Welsh language.

– ORIGIN C19: from Welsh *Cymru* ‘Wales’, *Cymry* ‘the Welsh’, + *-ic*.

2. ウェールズの言語状況の歴史

2.1. ブリテン島の初期の歴史

ブリテン島の初期の歴史を簡単に振り返っておきたい。(なお、下記の年表は、寺澤(2008)の巻末の「英語史年表」から小論に関連ある箇所を抜粋し、若干調整したものである。)

3000-2000BC	巨石遺跡ストーンヘンジ建造
1000BC以降	ケルト民族、ブリテン島に渡来
55-54BC	ユリウス・カエサル、2回にわたりブリテン島侵攻
AD43	ローマ皇帝クラウディウス、ブリテン島征服を開始 ⇒先住のケルト民族、ローマの影響を受ける
410頃	ローマ帝国、ブリテン島から撤退
450以降	アングル人・サクソン人・ジュート人・フリジア人、ブリテン島に定住開始 ⇒以降、英語はブリテン島で独自に発達
5c-9c	アングロサクソン七王国時代
750-1050	ヴァイキング時代。北欧のデーン人など、英国に侵入し修道院などを略奪

⇒後に英国北部・東部・北西部に定住

1066 ノルマン征服 (Norman Conquest)

⇒ノルマンディー公ウィリアム、英国王ウィリアム1世として即位

紀元前 1000 年以降、ブリテン島にはケルト民族が渡来した。紀元前 55 年と 54 年にはローマ帝国のユリウス・カエサル (Julius Caesar) がブリテン島に侵攻。紀元 43 年にローマ皇帝クラウディウス 1 世 (Claudius I) がブリテン島征服を開始し、5 世紀初頭にローマ帝国が撤退するまで、ローマン・ブリテン (Roman Britain) の時代が続いた。以後、ゲルマン民族 (アングル人・サクソン人・ジュート人・フリジア人) がブリテン島に渡来して定住し、先住のケルト民族をウェールズやコーンウォールなどに追いやった。なお、ゲルマン民族のアングル人・サクソン人・ジュート人・フリジア人たちが居住したのはイングランド地方であるが、「イングランド」(England) とはそもそも「アングル人たちの土地」を意味する古英語 “Engla-land” (=Angles’ land) に由来する。

その後、英語史の観点からは「古英語」(Old English) の時代に入る。アングロサクソン人の時代が続いたが、8 世紀半ばからは北欧のデーン人などが英国に侵入し、後に英国の北部・東部・北西部に定住するようになる。(Cf. デーン法 (Danelaw) 地帯)

そして、1066 年には「ノルマン征服」が起こる。ノルマンディー公ウィリアムがヘイスティングズの戦いで英国王ハロルドを破り、英国王ウィリアム 1 世としてノルマン王朝を開いた。以後、英語は「中英語」(Middle English) の時代に入る。ノルマン人が英国にフランス語をもたらしたことにより、英語は語彙の面でフランス語の影響を大きく受けることになる。

2.2. ウェールズ語関連の歴史

19 世紀以前と 20 世紀に分けて、ウェールズ語をめぐる状況を略述する。(Price (2000:78-108), Ball (2007: 248-253), Newcombe (2007: 1-12), 松本 (2007) などを参照した。)

まず、19 世紀以前から見ていこう。

1282 ウェールズが政治的独立を喪失

1536 ウェールズ併合法 (Act of Union)

1567 新約聖書と祈祷書のウェールズ語訳出版

1588 旧・新約聖書のウェールズ語訳出版

1847 『ウェールズの教育状況に関する調査報告書』

ウェールズは1282年に政治的独立を失ったが、ウェールズでは中世を通じて圧倒的にウェールズ語が用いられていた。しかし、1536年の「併合法」(Act of Union)によりウェールズはイングランドに併合され、ウェールズ語は公的な領域での使用から締め出された。しかし、1567年には新約聖書と祈祷書のウェールズ語訳が、1588年には旧・新約聖書のウェールズ語訳が出版され、また、教会堂ではウェールズ語による活動が行われたため、民衆の間では活発に用いられた。

19世紀初頭、ウェールズでは、大多数の者がウェールズ語を話していた。Ball (2007: 249)によると、1801年時点で、ウェールズ語話者は、ウェールズ人口のうち80%を占めていたと見積もられる。しかし、19世紀の間に、ウェールズ語は次第に英語の脅威にさらされることになった。産業革命の結果、ウェールズ南部にはイギリスの他の地域から労働者が流入した。当初は、他の地域から来た英語話者がコミュニケーションのためにウェールズ語を覚えたが、次第に彼らの数が増してくると、ウェールズ語話者が英語を用いるようになった。また、1847年に発表された『ウェールズの教育状況に関する調査報告書』(*Reports of the Commissioners of Inquiry into the State of Education in Wales*; 通称“Treachery of the Blue Books”)では、ウェールズ語はウェールズ人の道徳的および商業的發展を阻むものであるなどとされた。この報告書の後に設立された小学校の教育は英語でのみ行われ、児童が学校でウェールズ語を使うと罰されたようである。

最初の国勢調査が行われた1891年時点で、ウェールズ語話者の割合は、ウェールズ語人口のうち半分強(54.5%)にまで落ち込んでいた。

では、次に、20世紀以降の状況を見てみよう。

1942 ウェールズ法廷法

1977 ウェールズ語のラジオ放送局 BBC Radio Cymru 開設

1982 ウェールズのテレビ局 S4C 開設

1988 ウェールズ語委員会設立(諮問機関として)

1993 ウェールズ語法

ウェールズ語委員会設立(法定機関として)

1999 ウェールズ議会設立

上述のように、1536年の「併合法」によりウェールズ語は公的な領域での使用から締め

出されていたが、1942 年の「ウェールズ法廷法」(Welsh Courts Act) により、ウェールズ語話者が英語では不利になると感じる場合は法廷でウェールズ語を用いることが可能になった。

1977 年にはウェールズ語のラジオ放送局 BBC Radio Cymru が開設され、1982 年にはウェールズのテレビ局 S4C (S4C=Sianel Pedwar Cymru ‘Channel Four Wales’) が開設された。

1988 年には諮問機関としての「ウェールズ語委員会」(Welsh Language Board) が設立された。1993 年には「ウェールズ語法」(Welsh Language Act) が制定されて、公的部門では英語とウェールズ語が対等の地位に置かれることとなった。そして、この法律に伴い、公的機関としての「ウェールズ語委員会」(Welsh Language Board) が、ウェールズ語使用の推進を主たる目的に設立された。

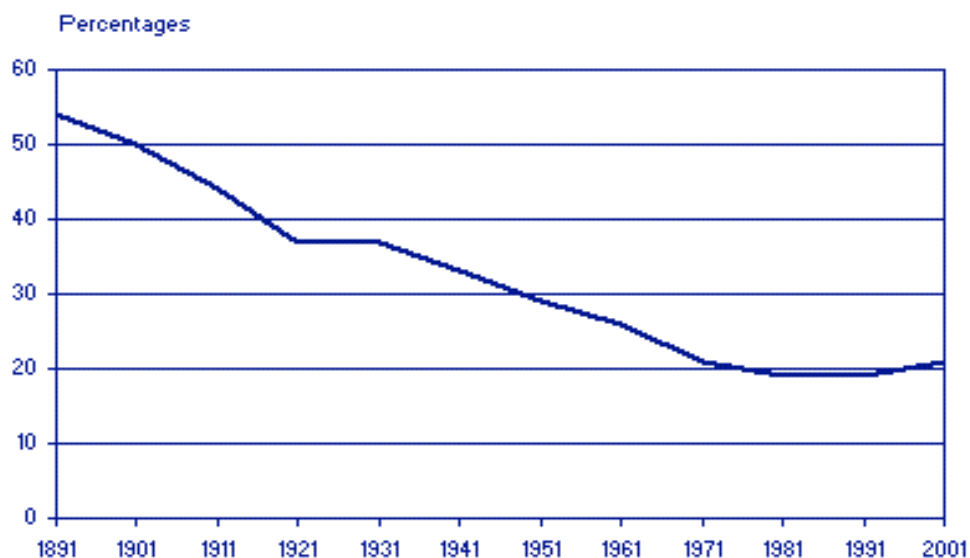
1999 年には、1997 年にイギリスの政権に就いた労働党政府の自治権移譲の取り組みの一環として、「ウェールズ議会」(National Assembly for Wales) が設立された。なお、ウェールズ語委員会は、現在、ウェールズ議会政府 (Welsh Assembly Government) がスポンサーとなって運営されている。

2.3. ウェールズ語話者数の推移

1891 年以降、10 年ごとに行われる国勢調査の結果に基づき、ウェールズ語話者数の推移を見ておこう。下に挙げたグラフは、イギリスの統計局 (Office for National Statistics) のホームページ (National Statistics Online) から引用したものである。3 歳以上のウェールズ人口のうち、ウェールズ語を話すことができる者の割合を示している。

(<http://www.statistics.gov.uk/cci/nugget.asp?id=447&Pos=6&ColRank=1&Rank=192>)

<Proportion of people aged 3 and over able to speak Welsh>



19 世紀末の 1891 年の段階ではウェールズ話者の割合はかろうじて半分を超えていたが、それ以降、大幅に減少の傾向が続いた。国勢調査の結果により、1901 年以降の話者数とウェールズ人口に占める割合とを挙げておく。（ただし、1941 年は国勢調査なし。）

<Welsh speakers (persons present aged 3 and over who were reported as speaking welsh at each census)>

国政調査年	1901	1911	1921	1931	1951
話者数	929,800	977,400	922,100	909,300	714,700
割合 (%)	49.9	43.5	37.1	36.8	28.9

1961	1971	1981	1991	2001
656,000	542,400	508,200	500,000	582,400
26.0	20.8	18.9	18.5	20.8

* 2001 年については “Census 2001: Main Statstlics about Welsh” (p. 1) を参照。

その他の年度については *Iaith Pawb* (p. 3) を参照。

1901 年の段階でのウェールズ語話者の割合は 49.9%、わずかながらウェールズ人口の半分を下回る状況であった。その後、ウェールズ語話者の割合は低下の傾向をたどり、1991 年の国勢調査では 18.5%にまで落ち込んだ。ところが、2001 年に行われた国勢調査では

20.8%を記録し、わずかながら上昇に転じたことは注目に値する。

ただし、2001 年の国勢調査では、ウェールズ語に関する質問の仕方が 1991 年の国勢調査とは若干異なっている。（国勢調査のウェールズ語に関する調査項目については、松本（2008）に具体的な分析がある。）

1991 年と 2001 年のウェールズ語に関する質問を以下に挙げておく。

< Census1991 の質問表より >

This question is for all persons aged 3 or over (born before 22nd April 1988)	
Does the person speak, read or write Welsh?	
Please tick the appropriate box(es)	
Speaks Welsh	<input type="checkbox"/>
Reads Welsh	<input type="checkbox"/>
Writes Welsh	<input type="checkbox"/>
Does not speak, read or write Welsh	<input type="checkbox"/>

< Census 2001 の質問表より >

Can you understand, speak, read, or write Welsh?
✓ all the boxes that apply
<input type="checkbox"/> Understand spoken Welsh
<input type="checkbox"/> Speak Welsh
<input type="checkbox"/> Read Welsh
<input type="checkbox"/> Write Welsh
<input type="checkbox"/> None of the above

「話す」に関して見ると、1991 年では「ウェールズ語を話しますか？」と質問しているのに対して、2001 年では「ウェールズ語を話せますか？」と質問している。松本（2008: 72）に述べられるように、ウェールズ語を話す能力を問う質問に変わったことにより、「普段は話す機会のないウェールズ語話者やウェールズ語能力に必ずしも自信を持っていない学習者が回答しやすくなったかもしれない」と考えられる。2001 年の国勢調査でウェールズ語話者の割合が高まったと言う際に、数値だけに目を奪われるのではなく、調査の仕方の違いを斟酌する必要があるだろう。

3. ウェールズ語の現況

2001 年の国勢調査でウェールズ語話者の割合が上向きになったことは、ウェールズ語の将来にとって明るい情報であった。ウェールズ語委員会やウェールズ議会政府などによって様々な調査結果が公表されているが、ここでは以下の 2 つの資料に基づき、現況についてもう少し詳しく見ておこう。いずれも、ウェールズ語委員会の発行物である。

Census 2001: Main Statistics about Welsh (2003)

The Vitality of Welsh: a Statistical Balance Sheet (2008)

3.1. Census 2001: Main Statistics about Welsh (2003) より

(1) 話者数

3 歳以上の人口のうち、ウェールズ語を話すことができると回答したのは 582,400 人 (20.8%) であった。

(2) 年齢別

ウェールズ語話者の割合が最も高い年齢層は子供であり、5-15 歳では 40.8% (男子 38.0%、女子 43.8%) に達する。

男女別で見ると、ウェールズ語話者の割合はほとんどの年齢層において女性の方が高く、全体としては、男性で 19.9%、女性で 21.6% であった。

統計値を引用しておく。

(<http://www.byig-wlb.org.uk/english/publications/pages/publicationitem.aspx?puburl=/english/publications/publications/332.doc> より)

<Able to speak Welsh, 2001>

	<i>Percent</i>				<i>Number</i>		
<i>Age</i>	<i>All</i>	<i>Males</i>	<i>Females</i>		<i>All</i>	<i>Males</i>	<i>Females</i>
3-4	18.8	17.5	20.1		13,239	6,336	6,903
5-15	40.8	38.0	43.8		171,168	81,870	89,298
16-19	27.6	24.0	31.3		40,548	17,672	22,876
20-44	15.5	14.7	16.3		146,227	67,818	78,409
45-64	15.6	15.4	15.8		112,742	54,789	57,953
65-74	18.1	18.2	17.9		47,692	22,483	25,209
75-	21.1	20.7	21.3		50,752	18,192	32,560
Total	20.8	19.9	21.6		582,368	269,160	313,208

(3) 地域別

以下、地方自治体別に、1991 年と 2001 年のウェールズ語話者の割合を見る。

ウェールズ語話者の割合が高いのは、2001 年の国勢調査の数値によると、Gwynedd (69.0%)、Isle of Anglesey (60.1%)、Ceredigion (52.0%)、Carmarthenshire (50.3%) である。前 2 者はウェールズ地方の北西部、後 2 者は南西部に位置する。

一般に、南東部はウェールズ語話者の割合が低い。2001 年の国勢調査の数値によると、Monmouthshire (9.3%)、Blaenau Gwent (9.5%)、Newport (10.0%)、Merthyr Tydfil (10.2%)、Bridgend (10.8%)、Cardiff (11.0%)、Torfaen (11.1%)、Caerphilly (11.2%)、Vale of Glamorgan (11.3%) など、大体は 10%前後である。

1991 年と 2001 年の数値を比較すると、ウェールズ語話者の割合が減少しているのは、元来話者の割合が高い南西部の Ceredigion (-7.1%)、Carmarthenshire (-4.5%)、北西部の Gwynedd (-3.1%)、Isle of Anglesey (-1.9%) である。

その他の地域は増加傾向にある。増加率が高いのは、南東部の Torfaen (+8.7%)、Newport (+7.7%)、Blaenau Gwent (+7.3%)、Monmouthshire (+7.2%) など、元来話者の割合が低い地域である。

下に地方自治体ごとのウェールズ語話者の統計値を挙げておく。(地方自治体の地図については、たとえば、Wikipedia (s.v. *Wales*) の “local government” の項を参照。
http://en.wikipedia.org/wiki/Wales#Local_government)

<By local government authority area, in 2001>

	Welsh speaking		Able to speak Welsh			
	1991		2001		Change	
Local authority	Number	Percent	Number	Percent	Number	Percentage points
Isle of Anglesey	41,239	62.0	38,893	60.1	-2,346	-1.9
Gwynedd	78,732	72.1	77,846	69.0	-886	-3.1
Conwy	31,444	30.6	31,298	29.4	-146	-1.2
Denbighshire	23,293	26.7	23,760	26.4	467	-0.3
Flintshire	18,405	13.5	20,599	14.4	2,194	0.8
Wrexham	15,985	13.7	18,105	14.6	2,120	0.9
Powys	23,589	20.5	25,814	21.1	2,225	0.5
Ceredigion	36,027	59.1	37,918	52.0	1,891	-7.1
Pembrokeshire	19,754	18.3	23,967	21.8	4,213	3.4
Carmarthenshire	89,221	54.9	84,196	50.3	-5,025	-4.5
Swansea	28,549	13.3	28,938	13.4	389	0.1
Neath Port Talbot	23,710	17.8	23,404	18.0	-306	0.2
Bridgend	10,161	8.3	13,397	10.8	3,236	2.5
Vale of Glamorgan	7,752	6.9	12,994	11.3	5,242	4.4
Rhondda; Cynon; Taff	20,038	9.0	27,946	12.5	7,908	3.5
Merthyr Tydfil	4,238	7.5	5,532	10.2	1,294	2.7
Caerphilly	9,710	6.0	18,237	11.2	8,527	5.2
Blaenau Gwent	1,522	2.2	6,417	9.5	4,895	7.3
Tor-faen	2,126	2.5	9,780	11.1	7,654	8.7
Monmouthshire	1,634	2.1	7,688	9.3	6,054	7.2
Newport	2,878	2.3	13,135	10.0	10,257	7.7
Cardiff	18,089	6.6	32,504	11.0	14,415	4.4
Wales	508,098	18.7	582,368	20.8	74,270	2.1

3.2. The Vitality of Welsh: a Statistical Balance Sheet (2008) より

この文書はウェールズ語に関する従来 of 統計を対照して、ウェールズ語の現況を明らか

にしようとするものである。序文（“Introduction”）より、目的に関わる部分を引用しておく。

This document is a first attempt by the Welsh Language Board to bring together a selection of statistics pertaining to Welsh, with the intention of presenting a fair and balanced outline of the current position of the language. This is one of the responses of the Board to the responsibility placed on it by *Iaith Pawb*, the Welsh Assembly Government's national action plan for a bilingual Wales, to develop, compile and publish a range of statistical indicators.

全体を3種類の要素、すなわち、人口（Demographic）・支援（Support）・地位（Status）に分けて、様々な項目ごとに過去と現在の状況の違いを示している。3種類の要素とは何かについて、序文より引用しておく。

Demographic factors include the numbers of speakers of the language and their age and geographical distribution and concentration. Family formation and intergenerational transmission of the language are key factors. Trends of in- and out-migration are important factors in all this.

Support factors include institutional sustenance and support, including all levels of governments and agencies of government but also voluntary and commercial organisations.

Status factors include economic, social and symbolic status. Economic status is connected with the usefulness of the language in the world of work. The status of the language in society in its turn is likely to be connected with its economic status but social status reflects the usefulness of the language outside the world of work. Symbolic status includes the usefulness of the language to the identity of individuals and society as a whole.

以下、3種類のそれぞれから、特に興味深く思われる項目をいくつか抜粋して見ることにする。

(1) ウェールズ語話者の人口密度

ウェールズ語話者数に関する統計のうち、人口密度の分布を示すものを紹介する。（p. 4より）

Geographical distribution	1991	2001	
Communities where over 70% are able to speak Welsh			
<i>Number of communities</i>	92	54	-38
<i>As % of all communities</i>	10.7%	6.2%	-4.5%
<i>Number of speakers in those communities</i>	115,000	80,000	-3,5000
<i>Speakers of those communities as % of all speakers</i>	22.7%	13.8%	-8.9%

*Explanatory note: A target of *Iaith Pawb* is that by 2011 the decline in the number of communities where Welsh is spoken by over 70% of the population is arrested.

上の統計は、構成員の 70%以上がウェールズ語を話すことができる地域共同体について、1991 年と 2001 年の国勢調査の結果を比較したものである。10 年間で、当該の地域共同体の数は 92 から 54 に減少し、割合は 10.7%から 6.2%に低下した。また、それらに属する人口も 11 万 5 千人から 8 万人に減少し、割合は 22.7%から 13.8%に低下した。*Iaith Pawb* は、2011 年までにウェールズ語の話者が 70%を超える地域共同体の減少を止めることを目標として掲げている。

構成員のうち 70%以上がウェールズ語を話すことができる地域共同体では、日常的に活発なウェールズ語の使用が期待できるであろう。この点に関して、*Iaith Pawb* の見解を引用しておく。(p. 5)

The state of the language in communities where it was spoken by over 70% of the local population aged 3 years and over in 1991 is worthy of particular attention. These are communities where the density of Welsh speakers means that the language is more likely to be spoken in social, leisure and business activities and not be confined to the home, chapel and school. In these areas Welsh is a living, everyday language, spoken, heard and seen in the community; it is part of the fabric of the community. Censuses and surveys over recent decades have shown a continuing decline in the number of communities where more than 70% of the population speak Welsh. Continuing decline could arguably threaten the existence of the Welsh language since it would no longer have a natural environment in which it was spoken as a matter of course in the range of social contexts.

(2) ウェールズ語による教育

ここでは、ウェールズ語で教育する学校（Welsh medium school）に関する統計値を見ておきたい。小学校（primary school）と中等学校（secondary school）について挙げる。

School	Jan 1997	Jan 2007	
Primary			
Mainly Welsh medium primary schools			
Number	449	466	+17
As % of all primary schools	26.7%	30.5%	+3.8%
	Sept 1991	Jan 2007	
Mainly Welsh medium classes			
Number of children in them	43,984	53,342	+9,358
As % of all primary school children	16.0%	20.3%	+4.3%

Secondary	<i>Jan 1997</i>	<i>Jan 2007</i>	
Welsh speaking schools (1996 Education Act defn.)			
<i>Number</i>	49	54	+5
Children learning Welsh as a second language			
<i>Number</i>	114,908	153,281	+38,373
<i>As % of all children</i>	65.0%	83.7%	+18.7%

主にウェールズ語で教育を行う小学校（mainly Welsh medium primary schools）は、2007 月 1 月現在で 466 校、全小学校のうち占める割合は 30.5%であり、10 年前の 1997 年 1 月現在に比べると、17 校（3.8%）の増加が見られる。また、児童数では、2007 月 1 月現在で 53,342 人（20.3%）、16 年前の 1991 年 9 月現在に比べると、9,358 人（4.3%）の増加が見ら

れる。

一方、基礎教科の半分以上をウェールズ語で教育する中等学校（Welsh speaking secondary schools）は、2007 月 1 月現在で 54 校あり、10 年前の 1997 年 1 月現在に比べると、5 校の増加が見られる。また、ウェールズ語を第 2 言語として学んでいる生徒は、2007 月 1 月現在で 153,281 人（83.7%）おり、10 年前の 1997 年 1 月現在に比べると、38,373 人（18.7%）の増加が見られる。

(3) 社会的地位

下記の表は、管理職（managers and senior officials）あるいは専門的職業（professional occupations）についている人々に関して、ウェールズ語話者と非ウェールズ語話者の割合を示したものである。（p. 12 より）

Social	2001	2006	
Occupation:			
Managers and Senior Officials			
<i>% of Welsh speakers</i>	9.7%	10.7%	+1.0%
<i>% of non-Welsh speakers</i>	12.4%	13.2%	+0.8%
<i>Difference</i>	-2.7%	-2.5%	
Professional occupations			
<i>% of Welsh speakers</i>	14.9%	15.4%	+0.5%
<i>% of non-Welsh speakers</i>	9.4%	10.0%	+0.6%
<i>Difference</i>	+5.5%	+5.4%	
Total: managers and professionals			
<i>% of Welsh speakers</i>	24.6%	26.1%	+1.5%
<i>% of non-Welsh speakers</i>	21.7%	23.3%	+1.6%
<i>Difference</i>	+2.8%	+2.9%	

*Explanatory note: The statistics above are included on the assumption that there is a relationship between the status of the language and the socio-economic status of those who speak it. The figures show that a higher percentage of those who speak Welsh are in those occupations considered to be of high status.

管理職の場合にはウェールズ語話者の割合のほうが低い、専門的職業の場合はウェールズ語話者の割合のほうが高い。

管理職と専門的職業を合算すると、ウェールズ語話者の割合のほうが2001年では2.8%、2006年では2.9%高いという結果を示している。

4. 言語政策の例

筆者は、2007年の年末から2008年の年始にかけて、調査のために10日ほどウェールズの首都カーディフに滞在した。その時に見聞した範囲で、“Bilingual Wales”の実現を目指す言語計画のいくつかの事例を記しておきたい。

ウェールズに行って最初に目につくのは、ウェールズ語と英語の二言語表記であろう。カーディフ（ウェールズ語 *Caerdydd* / 英語 *Cardiff*）では、路上や公共施設で数多くの二言語表示を見た。（その写真の何枚かを巻末の付録1に挙げておく。）

公的な出版物でも二言語表記が徹底している。たとえば、ウェールズ議会政府発行の『ウェールズ語計画』（*Cynllun Iaith Gymraeg / Welsh Language Scheme*, 2006年刊）では、総計134ページのうち、左ページはウェールズ語、右ページは英語で書いてある。また、ウェールズの教育と資格に関する諮問機関であるACCAC（=Awdurdod Cymwysterau, Cwricwlwm ac Asesu Cymru / Qualifications, Curriculum and Assessment Authority for Wales）の教材カタログ（2002年刊）は、約130ページのうち、前半と後半のほぼ半分ずつをウェールズ語と英語による説明に充てている。

言語政策の一環として、成人のウェールズ語学習にも重点が置かれている。たとえば、カーディフ大学のウェールズ語学科には“Cyrsgau Cymraeg i Oedolion / Welsh for Adults Courses”というセンターが設けられている。カタログ（*Prosbectws / Prospectus 2007/8*）から英文紹介文の冒頭を引いてみよう。

WELCOME to Cardiff and the Vale of Glamorgan Welsh for Adults Centre, School of Welsh, Cardiff University. Our vision is to deliver teaching and research of international distinction in Welsh as a second language so as to contribute fully to the making of a bilingual Wales.

このセンターでは、レベル別に様々なコースが設けられている。さらに、教室での授業以外に、“Informal Learning Opportunities”として、外で会話力を磨く実践の機会も提供しているようである。

（なお、学習したウェールズ語を実際に使って練習するためのサークルは市内にいろい

ろと存在するようで、カーディフ中央図書館の掲示板などにも宣伝のチラシが貼られているのを見た。)

“Welsh for Adults” (WfA) に関して、Newcombe (2007: 7) の見解を参考までに引用しておく。

The Cardiff venture, which began in 2000, seeks to stimulate Welsh in a wide social context as well as amongst Welsh learners. Its language strategy aims to ensure increasing Welsh for Adults (WfA) provision in the city and that more employers introduce vocational training through the medium of Welsh (Kiff, 2001).

“Bilingual Wales” の実現を目指す政策の一環として、職場におけるウェールズ語の使用が奨励されている。英語とウェールズ語の二言語ができると、雇用者にとっても被雇用者にとっても有利なようだ。上述のカーディフ大学の成人ウェールズ語学習センターのカタログ (p. 8) には、“Learning Welsh in the Workplace” という見出しのもとに、次のような記述がある。

For Whom?

Employers

The market of Welsh speakers is growing rapidly in Cardiff and the Vale of Glamorgan. There has been an increase of 6.8% (Cardiff) and 7.1% (the Vale) in the number of Welsh speakers between 1991 and 2001 Census. An even more important figure for the future is that 40.8% of children aged between 5-15 years are able to speak Welsh. More and more businesses are realising that the ability to use Welsh and English enables you to:

- Gain a competitive advantage
- Improve the quality of your service
- Gain good will and loyalty from your customers

Employees

Employees with bilingual skills are more likely to earn a salary 8-10% higher than workers without bilingual skills.

17% of people are more likely to use a shop or business that provide a Welsh language service (45% amongst Welsh speakers). This makes bilingual employees a very attractive asset to companies.

英語とウェールズ語の二言語ができる従業員にはどのような利点があるかが、数値とともに示されていて興味深い。

ウェールズ語委員会は、ウェールズ語で対応できる従業員等を識別するためのバッジ（Working Welsh Badge）を配布している。これは“*Iaith Gwaith*”（‘Working Welsh’）という言語計画を実現するための一つの試みである。バッジについての情報は、ウェールズ語委員会の以下のページを参照。

<http://www.byig-wlb.org.uk/English/services/Pages/HowdoIknowtowhomIcanspeakWelsh.aspx>

ちなみに、筆者がカーディフで滞在したホテルで、胸にこのバッジをつけたフロント係に尋ねたところ、業務で日常的にウェールズ語を用いており、ウェールズ語で話すとウェールズ語話者のお客はアットホームに感じるとのことであった。

5. おわりに

ウェールズ議会政府の *Iaith Pawb and Welsh Language Scheme Annual Report 2007-08* という年次報告書は、*Iaith Pawb: A National Action Plan for a Bilingual Wales*（2003）と *Welsh Language Scheme*（2006）という二大計画の実施状況について検証したものである。*Iaith Pawb*（‘Everyone’s Language’）は“Bilingual Wales”の実現のための行動計画、*Welsh Language Scheme* はウェールズ議会政府が英語とウェールズ語を対等に扱う方法を記している。（報告書の概要については、小論の巻末に付録2として“Executive Summary”を掲載しておく。）

ウェールズ議会政府の言語政策の理念、および *Iaith Pawb* と *Welsh Language Scheme* の背景を簡潔に示すものとして、*Iaith Pawb and Welsh Language Scheme Annual Report 2007-08* の序章（“Introduction”）の冒頭を引用しておく。（下線は筆者）

The Welsh Assembly Government is committed to supporting and promoting the Welsh language. Our vision of a truly bilingual Wales is a bold one. A truly bilingual Wales means a country where people can choose to live their lives through the medium of either or both Welsh and English and where the presence of both languages is the source of pride and strength to us all (Iaith Pawb, 2003).

Background to Iaith Pawb

Iaith Pawb was published in 2003 as a national action plan for a bilingual Wales. Structured in 3 parts, Iaith Pawb contains over 60 action points. Welsh Ministers and their

officials share responsibility for these actions and for identifying and addressing Welsh language issues in their policy areas.

An evaluation of *Iaith Pawb* was commissioned in May 2007. The evaluation report conducted by Arad Consulting, is available on the Assembly Government's website.

Background to the Welsh Language Scheme

The revised Welsh Language Scheme was prepared in accordance with Section 21 of the Welsh Language Act 1993 and Section 78 of the Government of Wales Act 2006, and received the approval of the Welsh Language Board (WLB) on 22 December 2006.

The Scheme explains how the Welsh Assembly Government will give effect to the principle established by the Welsh Language Act 1993 that, in the conduct of public business and the administration of justice in Wales, the English and Welsh languages should be treated on a basis of equality.

ウェールズ語話者の割合は、2001年の国勢調査では上昇に転じて20.8%を記録した。次回の2011年の国勢調査に関して、*Iaith Pawb* (p. 11)は5%増の25.5%を目標として掲げている。

英語が地球規模で使用される時代に、しかも英語の本場のイギリスにあって、ウェールズ地方がウェールズ語の復興を図り、政治・経済・教育・社会・文化の各方面にわたって様々な具体的方策を講じていることは注目に値する。かつてはヨーロッパで広く用いられていたケルト諸語が消滅あるいは大幅に縮小したなか、ウェールズ語は健在である。今後のウェールズ語の広がり期待したい。

参考文献

- Ball, Martin. 2007. "Welsh," in David Britain (2007), pp. 237-253.
- Britain, David. 2007. *Language in the British Isles*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lasagabaster, David and Ángel Huguet (eds.). 2007. *Multilingualism in European Bilingual Contexts: Language Use and Attitudes*. Clevedon: Multilingual Matters.
- Laugharne, Janet. 2007. "Language Use and Language Attitudes in Wales," in David Lasagabaster and Ángel Huguet, pp. 208-233.
- Newcombe, Lynda Pritchard. 2007. *Social Context and Fluency in L2 Learners: The Case of Wales*. Clevedon: Multilingual Matters.

Price, Glanville (ed.). 2000. *Languages in Britain & Ireland*. Oxford: Blackwell.

Welsh Assembly Government. 2003. *Iaith Pawb: A National Action Plan for a Bilingual Wales*.

Cardiff: Welsh Assembly Government.

(<http://new.wales.gov.uk/topics/welshlanguage/WLpublications/iaithpawb/?lang=en>)

Welsh Assembly Government. 2006. *Welsh Language Scheme*. Cardiff: Welsh Assembly Government.

Welsh Assembly Government. 2008. *Iaith Pawb and Welsh Language Scheme Annual Report 2007-08*.

Cardiff: Welsh Assembly Government.

(<http://www.assemblywales.org/bus-home/bus-guide-docs-pub/bus-business-documents/bus-business-documents-doc-laid.htm?act=dis&id=93538&ds=8/2008>)

Welsh Language Board. 2003. *2001 Census: Main statistics about Welsh*. Cardiff: Welsh Language Board.

(<http://www.byig-wlb.org.uk/english/publications/pages/publicationitem.aspx?puburl=/english/publications/publications/332.doc>)

Welsh Language Board. 2008a. *The Vitality of Welsh: A Statistical Balance Sheet July 2008*. Cardiff: Welsh Language Board.

(<http://www.byig-wlb.org.uk/English/publications/Publications/The%20Vitality%20of%20Welsh%20A%20Statistical%20Balance%20Sheet%20July%202008.pdf>)

Welsh Language Board. 2008b. *The Welsh Language Use Surveys of 2004-08*. Cardiff: Welsh Language Board.

(<http://www.byig-wlb.org.uk/english/publications/publications/welsh%20language%20use%20surveys%202004-06.pdf>)

コリン・ウィリアムズ／松山明子（訳） 2004 「ヨーロッパの少数言語—ウェールズの例から」
『ヨーロッパの多言語主義はどこまできたか』（三元社、2004）pp. 26-62.

寺澤盾 2008 『英語の歴史—過去から未来への物語』 中公新書

松山明子 2007 「ウェールズ語：衰退からの転機」『鶴見大学紀要』第44号 第2部 外国語・外国文学編 pp. 43-59.

_____ 2008 「ウェールズ語の復興と話者数データ」『鶴見大学紀要』第45号 第2部 外国語・外国文学編 pp. 65-81.

付録1

二言語表示の例（カーディフにて筆者撮影）



道路標識



警察車両



禁煙掲示

ORIAU AGOR NADOLIG A'R FLWYDDYN NEWYDD		CHRISTMAS AND NEW YEAR OPENING TIMES	
Dydd Llun 17	9-6	Monday 17	9-6
Dydd Mawrth 18	9-6	Tuesday 18	9-6
Dydd Mercher 19	9-6	Wednesday 19	9-6
Dydd Iau 20	9-7	Thursday 20	9-7
Dydd Gwener 21	9-6	Friday 21	9-6
Dydd Sadwrn 22	9-5.30	Saturday 22	9-5.30
Dydd Sul 23	AR GAU	Sunday 23	CLOSED
Dydd Llun 24	AR GAU	Monday 24	CLOSED
Dydd Mawrth 25	AR GAU	Tuesday 25	CLOSED
Dydd Mercher 26	AR GAU	Wednesday 26	CLOSED
Dydd Iau 27	9-6	Thursday 27	9-6
Dydd Gwener 28	9-6	Friday 28	9-6
Dydd Sadwrn 29	9-5.30	Saturday 29	9-5.30
Dydd Sul 30	AR GAU	Sunday 30	CLOSED
Dydd Llun 31	9-2	Monday 31	9-2
Dydd Mawrth 1	AR GAU	Tuesday 1	CLOSED
Dydd Mercher 2	Ar agor fel arfer	Wednesday 2	Open as normal

カーディフ中央図書館の開館時間



カーディフ大学人文学部



カーディフ自然博物館

付録 2

“Executive Summary” of *Iaith Pawb and Welsh Language Scheme Annual Report 2007-08*

pp. 4-6 より引用

Executive Summary

Introduction

This is the fifth annual report on the Welsh Assembly Government’s performance against the commitments contained in *Iaith Pawb*, the National Action Plan for a Bilingual Wales, and the Welsh Language Scheme for the Welsh Assembly Government.

Iaith Pawb (2003) set out a vision of a truly bilingual Wales. It included over 60 specific actions across a number of policy areas, and a commitment for the Welsh language to be an integral component of all Assembly Government activities.

The Welsh Language Scheme (revised in 2006) is a statutory document prepared under the Welsh Language Act 1993 and the Government of Wales Act 2006, which explains how we will treat the English and Welsh languages equally through our policies and the services we deliver.

This report is based upon on evidence collected during 2007-08.

This Executive Summary provides a synopsis of key findings and further work and should be read in conjunction with the main report.

Main findings

The following lists the highlights from the report:

- Work underway to devolve legislative competence on the Welsh language to the National Assembly.
- £600,000 to be invested in the Welsh-language print media.
- Arrangements for the use of Welsh in EU institutions at an advanced stage.
- 57 additional bodies to be named for inclusion under Section 6(1) of the Welsh Language Act.
- 63 new Welsh Language Schemes approved and 45 revised by the Welsh Language Board, bringing the total number in operation to 418.
- New checklists developed to help Welsh Assembly Government departments to mainstream the Welsh language in new policies and services.
- Welsh Language Board campaign to market Welsh language services sees continued success with Carmarthenshire County Council helpline seeing a 50% increase in calls.

- A major research conference shared findings of a range of research studies into the use of the Welsh language.
- Welsh language included as an underlying principle in revised statutory guidance on preparation of community strategies.
- Work commenced on developing a national strategy for Welsh-medium education.
- A total of 740 support assistants have been trained to work in Welsh medium early years settings, and a further 330 will be trained per year for the next three years.
- Increase of nearly 5,000 enrolments for Welsh for Adults courses between 2005/06 and 2006/07 academic years.
- A language awareness training pack launched by the Welsh Assembly Government and the Welsh Language Board.
- All NHS Trusts required by Assembly Government to appoint Welsh Language Officers and Local Health Boards required to pool resources and establish Welsh language units on a regional basis.
- Projects to increase use of Welsh launched by the Welsh Rugby Union following a partnership with the Assembly Government and the Sports Council for Wales.
- Welsh interfaces for Microsoft Windows Vista and Office 2007 and Welsh proofing tools for Apple Mac OS X made available for free following collaboration with the Welsh Language Board.
- 12.1% increase in sales of Welsh language books in 2007-08 compared with previous year.
- Departmental Welsh Language Action Plans produced, which included useful examples of how departments strategically plan with regard to the Welsh Language.
- Leaflets produced to encourage use of Welsh at Welsh Assembly Government conferences and public meetings.
- Nearly 5,000 calls received on Welsh Assembly Government's Welsh language helpline, 6.7% of the total number of calls.
- Bilingual Performance Management software produced for use by Local Authorities, Fire and Rescue Services and National Park Authorities.
- 98.6% of e-mail auto signatures monitored were bilingual and 83.2% of out of office replies were bilingual.
- 42% of Divisions reported that they undertook some work in Welsh at least sometimes.